

コンクリートの経歴

羽賀 義広

現在、青森県の橋梁アセットマネジメントの橋梁維持工事に携わっていますが、振り返れば、コンクリートと関わって30年以上になりました。この間、コンクリート構造物は高度成長期からの新設ラッシュを経て、点検・診断を基に補修・補強を行う長寿命化の時代へと変遷してきました。私は東北自動車道路八戸線でのPC跨道橋、RCラーメン橋、橋台・橋脚を皮切りに多くの新設構造物の施工に携わりました。補修工事は、昭和63年に旧国鉄から秋田内陸縦貫鉄道に移管される際に発注された鷹角線の未開通部分のトンネル補修他工事（トンネルや橋梁の補修）での経験が最初です。現場の吊足場から橋桁下の劣化・損傷箇所を見た時の驚き。そして「健全なコンクリートに治したい」と強く思ったことが、私のコンクリート診断の始まりであると思います。あれから25年、橋梁の維持管理に携わりながら、新設・補修を問わず良質な材料を用い丁寧に施工すること（シンプルで基本に忠実な作業）が、コンクリート長寿命化の一番の処方箋であると感じる次第です。



はが・よしひろ／正会員
（株）中綱組 代表取締役

“力”不足の私にできること

渡辺 ゆかり

私は生コン工場勤務です。いずれの業務も力仕事の多い仕事場です。まさしく“力”不足を感じる日々です。では、どんな形で会社に貢献出来るか「資格取得」挑戦あるのみです。コンクリート診断士に合格した今、頼もしさ、強さには欠けるけれど、女子ならではの繊細さを活かしつつ（女子という特別視から抜け出し）実力のある技術者を目指していきたいと思っています。

3.11の大震災、大惨事の中、鉄筋コンクリートの建物により人の命が助かったという記事を読みました。その反面トンネルのコンクリート剥落など、なんらかの不備により事故が起きています。コンクリートに関わっているものとして心が痛む思いです。コンクリート構造物は次世代に残す財産です。安心安全であり、人を守っていくものです。インフラ整備に携わっていく製造業として、高い意識を持って生コンの製造にあたっていくべく、今回得た知識を役に立てていければと思います。



わたなべ・ゆかり／
多賀城カイハツ生コン(株) 業務課長

被災地のコンクリート診断士として

島山 和之

2011年3月11日14時46分、巨大な地震から津波来襲を予想し高台に避難した。間もなく、釜石港湾口防波堤を越流する津波が多くのケーソンを水没させる光景を目の当たりにした。かつて、湾口防波堤用のケーソン（総重量16000t）製作に従事し、コンクリートと関わる端緒となった所だけに、そのショックは強く辛いものだった。

現在、被災地の復旧・復興工事では、資機材の調達や作業員の確保が課題となっており、工事の進捗に大きな影響を及ぼしている。今後、「国土強靱化対策」や「2020年東京五輪開催準備」が進むことで、更なる工事進捗の悪化が懸念される。

現場では施工速度の向上や人力作業の省力化等の対応策を考慮せざるを得ないが、高度経済成長期に急速施工された膨大な量の構造物が耐久性不足で問題となっていることを忘れず、地域に根差した建設業のコンクリート診断士として、微力ながらも役割を果たしたいと思う。



はたけやま・かずゆき／正会員
宮城建設(株) 港湾漁港部 専門部長

技術者倫理を持つこと

奥山 利弘

近年「技術者倫理」という言葉に触れる機会がある。耐震強度偽装問題や企業の組織的なりコール隠しなど、技術に関わる事故や不祥事が起こるたびに技術者の倫理性の欠如を問われることが多い。技術者として倫理に欠けていると、それらの健全な発展を阻害させ、公衆の安全、健康および福利を最優先する原則から逸脱し、業務を実施した技術者や組織を弱体化させてしまうおそれがある。

コンクリート診断士試験では、記述式問題の中で社会一般に関する知識や診断士の役割、ふさわしい心構え・倫理観を持っているかといった資質が問われる。診断士には診断技術のみならず高度な倫理観を持って、診断業務に取り組むことが強く望まれているためであると考えます。

私は、今後とも診断業務を適正に実施するために、診断技術の自己研鑽を継続するとともに、技術者倫理に基づく行動を心掛け、社会から信頼される技術者でありたいと思っている。



おくやま・としひろ／正会員
（株）山形生コン 工場次長